

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立早良高等学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	第1学年スポーツコミュニケーションコース 15名 (男子14名、女子1名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツコミュニケーションコース実習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	仲間と協力してボッチャに取り組む活動を通して、障がい者スポーツに関する知識・理解を深める。
5 取組内容	アダプテッド・スポーツ学習 (ボッチャ) ① 日時：令和2年1月29日 (水) 9:00～ 9:50 11:00～11:50 ② 場所：体育館 ③ 内容 ・ボッチャのルール等に関する映像視聴 (※写真1) ・リーグ戦【4人リーグ、立位、利き手】(※写真2) ・リーグ戦【4人リーグ、座位、利き手ではない手】(※写真3) ・感想シートの記入 【写真1】



【写真2】



【写真3】



6 主な成果

①ポッチャという競技の楽しさを生徒自身が見出しながら行えた

実際にポッチャを体験してみる中で、生徒たちは技術や戦術の難しさを感じながらも、お互いに競い合うことを楽しみながら行っている様子であった。生徒の一投ごとに歓声があがり、非常に盛り上がり、明るい雰囲気での活動が進んでいた。また、感想シートにも「楽しい」という感想だけでなく、多くの生徒が具体的にポッチャという競技のこういったところが楽しいと感じたかまで詳細に記述していた。

以下、感想シートの記述の一部抜粋である。

- いろいろな方法で相手のボールをはじいたりジャックボールに近づけたりするのがとても面白かったです。
- いろいろ考えてボールを投げたり、投げ方でボールの動きが変わったりして楽しかったです。
- とても楽しくできました。(中略) 単純なスポーツなのかと思っていましたが、どの位置にボールを置いたら大量点がとれるかなど、ポッチャというスポーツはとても頭を使うなと思いました。

	<p>②ボッチャを通してインクルーシブな視点を獲得できた</p> <p>感想シートの記述をみると、多くの生徒が、ボッチャを体験してみても感想だけでなく、ボッチャを通じた他者との交流や、スポーツを通じた障がいの理解について記述していた。ただ競技を楽しむだけでなく、スポーツを「共に」や「みんな」という点に生徒が着目できたのは大きな成果である。</p> <p>以下、感想シートの記述の一部抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャをしてみても、障がいのある方や、子どもから高齢の方までみんなで楽しむことのできる良いスポーツだなと思いました。 ・障がいをもっている人たちとも、ボッチャを通じてコミュニケーションをとることができると思いました。 ・実際にやってみたらすごく難しかった。ボッチャの選手は普通にやっていると思うとすごい。(中略)ボッチャというスポーツはもっと知られるべきだ。 ・自分たちが障がい者スポーツを知ることによって、もっと体が不自由な人の気持ちが変わる人が増えるんだろうなと思いました。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>①条件やルールを変えながらボッチャに取り組ませる</p> <p>本実践では、単にボッチャを楽しませることだけでなく、ボッチャを通して「障がい者スポーツ」について考えさせることが大きなねらいであった。そのため今回は、立位のまま利き手でボールを投げるルールで行った後、椅子に座り利き手ではない手でボールを投げるルールでもボッチャを行った。特に、利き手ではない手でボールを投げるというルールに、生徒は「やりづらさ」を感じたようであり、障がいという状態の疑似体験に近いものとなった。実際の活動の様子を見ても、「難しい」や「障がいがあるのに上手くできるなんてすごい」などの声が生徒からあがっていた。生徒に障がい者スポーツを体験させる際は、ただ競技をさせるだけでなく、ルールや条件を少し変え、「やりづらさ」や「難しさ」を与えることで、障がい者スポーツや障がいそのものへの理解を深めることができると感じた。</p>
8主な課題等	<p>①科目体育における「球技」との関連</p> <p>今回、ボッチャを教材として実践を行うなかで、科目体育にもボッチャを取り入れても面白いのではないかと強く感じた。本校の科目体育において、球技の授業では「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の中から種目を生徒に選択させている。この中に「ターゲット型」であるボッチャを組み込み、選択肢の1つとすることを検討したい。ボッチャを種目の1つとすることで、今まで生徒が経験していない「ターゲット型」球技に必要な運動の技能を身に付けさせることができることに加え、怪我や病気などで十分に活動に参加できない生徒にとっても、危険が少ない状態で運動の楽しさや喜びを味わわせることができるのではと考える。</p>
9来年度以降の実施予定	現段階では特になし